

京都大学防災研究所斜面災害研究センター

釜井俊孝・王功輝・土井一生

平成30年6月18日午前7時58分に大阪府北部を震源とするMj 6.1の地震(深さ13km)が発生した。この地震に伴って、大阪府の枚方市において観測史上初めて震度6弱を記録した。この調査報告では、枚方市内の公園内に生じた亀裂の様子について述べる。

公園は東に向かって傾斜する斜面に作られている。この公園においては、開口幅が数cm程度の亀裂が長さ20mほどにわたって生じた(写真1)。亀裂は公園の隣にあるマンションの敷地まで続いており(写真2)、マンションにおいては地盤沈下が見られた(写真3)。これらを合わせると変位が見られた亀裂の長さは40-50mほどにも及ぶ。また、この亀裂より斜面上方においても長さ数mの亀裂が生じた(写真4)。ほぼ同じ高さの南側の地点には地山が露出しており、公園の造成に際して薄く盛土された部分が地震時の揺れによって変位した可能性が示唆された。なお、公園の東端(斜面の末端部)においては、多量の湧水が確認された(写真5)。地元の方に伺ったところ、地震の前から継続的に湧水があったとのことであった。地下水位が非常に浅く、このことが地震時の斜面の安定性に大きな影響を与えたことが予想される。



写真1：公園内の亀裂の様子。



写真2：公園に隣接するマンションの敷地における開口亀裂。



写真3：マンションの敷地における地盤沈下。





写真4：公園の斜面上方の亀裂。



写真5：公園の東端（斜面の末端部）において確認された湧水。